

## 別紙1 遺跡の概要

### 1 遺跡概要

名 称	石鎚権現遺跡（いしづちごんげんいせき）		
所 在 地	広島県福山市駅家町大字大橋		
調 査 面 積	2,200 m <sup>2</sup>		
時 代 ・ 種 類	弥生～古墳時代，墳墓		
現 状	山林		
検出予定遺構	土壇 39 基，溝状遺構 1（古墳の周溝の可能性あり。）		
掘削 土量	合 計	599 m <sup>3</sup>	
	内 訳	表土掘削	550 m <sup>3</sup>
		遺構検出	22 m <sup>3</sup>
		遺構掘削	27 m <sup>3</sup>

### 2 発掘調査概要

現 地 作 業	令和2年7月20日から令和2年12月4日まで（予定）
作 業 日	月曜日～金曜日 ※ 原則として，土・日曜日及び祝日は作業を行わない。 ※ 降雨等により発掘作業が困難な状況の場合の取扱いについては，別途協議する。
作 業 時 間	午前8時30分～午後5時15分（休憩時間を含む。）

## 別紙2 業務内容詳細

### 1 測量基準杭設置

- ・ 業務場所に設置した3～4級基準点（国土座標，海拔高を含む。）をもとに，調査区内に測量基準杭を設置する。
- ・ 設置位置・本数・時期等については，公益財団法人広島県教育事業団埋蔵文化財調査室職員（以下，調査職員という。）の指示による。

### 2 表土掘削

- ・ 遺構検出面までの表土は，人力により掘削する（掘削深度0.25m）ものとし，遺構検出面に影響を与えないよう慎重に行うものとする。
- ・ 土壌内は，人力により掘削するものとし，床面付近の遺物・人骨等に影響を与えないよう慎重に行うものとする。
- ・ 掘削の方法及び深度は，調査職員の指示による。

### 3 遺構検出

- ・ 遺構検出面は，草削り・ステーキホーなど発掘用具を用いて掘削・精査し，遺構の有無，平面プラン，種別などの内容を把握する。

### 4 遺構掘り下げ

- ・ 遺構内の埋土を，移植ゴテ・竹ベラ等の小型の発掘用具を用いて慎重に掘り下げる。
- ・ 掘り下げの方法及び深度については，調査職員の指示による。
- ・ 作業は，出土遺物に細心の注意を払い慎重に掘り下げを行なう。

### 5 排土処理等

- ・ 表土掘削・遺構検出・遺構掘り下げ等で排出した土砂等を，調査職員があらかじめ指定した場所へ，不整地運搬車等により運搬する。
- ・ 排土の置き場については，流出などを防止するため土留めなどの対応策を十分に講じること。

作業期間等

作業期間	表土掘削による排土	調査職員が指示する期間
	遺構検出・遺構掘り下げ等による排土	表土掘削排土期間を除く現地作業予定期間と同じ
運搬土量	別紙1のとおり	
使用機械	不整地運搬車，一輪車など	

### 6 遺構記録（実測・写真撮影）

#### （1）実測

- ・ 遺跡全体図（調査前及び調査後），遺構実測図（土層断面・完掘），遺物出土状況図，遺構略測図を作成する。
- ・ その他，遺構を実測する時期の詳細については，調査職員の指示による。

- ・ 遺構実測図及び遺物出土状況図は調査員の手測りとし、遺構の特徴を的確に表現するとともに、個別遺構・遺物出土状況の実測にあたっては、特徴等の観察記録を図中に記載すること。なお、やむを得ず電子機器を使用する場合は、個別に調査職員と協議すること。
- ・ 実測図作成後は、調査職員の検査を受け、修正等を指摘された場合は速やかに実施すること。
- ・ 図面の縮尺は、原則として次のとおりとするが、調査職員の指示により変更する場合がある。

#### 図面縮尺

遺跡全体図（平面図）	1 / 100
遺構実測図（平面図・断面図・立面図）	1 / 10～1 / 20
遺物出土状況図（平面図・断面図・立面図）	1 / 5～1 / 10

### (2) 写真撮影

- ・ 遺跡全体、遺構検出状況、遺物出土状況及び調査状況等を写真撮影すること。
- ・ 写真撮影の時期・アングル・カット数は、調査職員の指示による。また、撮影記録として遺構名・日時・方向等を記録すること。
- ・ アナログは、35 mm及び6×6判以上のサイズのフィルム（ともにモノクロ、ポジフィルム）、デジタルは、フルサイズを使用すること。
- ・ フィルム写真を撮影した後は、速やかに現像して現場で遺構と照合した後に調査職員の点検を受けること。
- ・ デジタル写真の撮影に際しては、必ずグレイスケールの写し込みを行うこと。
- ・ デジタル画像については、RAW画像とJPEG画像の両方を成果品とする。また、RAW現像・色補正も併せて行い、補正前と補正後の両方のデータを納品すること。

## 7 その他付帯業務

### (1) 空中写真撮影

- ・ 遺跡及び遺跡周辺を含めた全体の写真を、ドローン等により、空中から撮影する。
- ・ 撮影時期・アングル等は、調査職員の指示による。
- ・ 撮影には、35 mm及び6×6判以上のサイズのフィルムを用い、モノクロ・ポジ各4カット以上とする。デジタル写真も同様とする。
- ・ 成果品は、各フィルム原版及びデジタル写真（解像度1,200dpi以上、RAW画像及びJPEG画像3,000×3,000ピクセル以上のサイズ）をハードディスク等で納入する。

### (2) 調査事務所等の建設・管理

- ・ 現地作業の着手に先立ち、あらかじめ調査職員の指示した場所に、調査事務所及び仮設トイレを設置するとともに、調査事務所備品、発掘用具・発掘消耗品及び資器材の搬入を完了しなければならない。

### (3) その他甲の指示した業務

- ・ 当該遺跡の発掘調査及び本業務の履行に関して、個別に調査職員が指示する業務を行う。

## 8 その他

受託者は、各工程が終了するごとに、調査職員の検査を受けること。

### 別紙3 発掘調査工程計画書

遺跡の発掘作業については、次のとおりとする。

	発掘作業工程	発掘成果品とその仕様
(1)	<p><b>調査前の記録</b></p> <p>遺跡調査前の状況について、周辺地形測量図及び現況写真等、必要な記録作業を行う。掘削前には、基準となる測量杭の打設を行う。</p> <p><b>遺構の検出</b></p> <p>調査区にトレンチを設定して掘削を行い、表土等の堆積状況を確認し、必要な記録作業を行う。</p> <p>そのデータに基づき、表土を人力により掘削して遺構検出面を確認する。その後、遺構の数・形状及び規模を確認して、遺構配置図の作成及び検出状況の写真撮影等、必要な記録作業を行う。</p>	<p>基準点・水準点測量成果</p> <p>調査前現況写真</p> <p>調査前地形測量図（平面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺 1/100 程度</li> </ul> <p>土層実測図（断面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺 1/10～1/20</li> </ul> <p>遺構配置図（平面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺 1/100～1/200</li> </ul> <p>遺構検出状況等写真</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考古学的重要度に応じた記録方法を取る。</li> </ul>
(2)	<p><b>遺構の調査(1)</b></p> <p>遺構検出面を人力により精査し、遺構の平面プランを確認する。遺構の重複や遺跡の評価に関わる意味が認められる場合は、土層断面及び遺物検出状況等の記録作業を行う。</p> <p>遺構の平面プランを確認した後に、土層観察用のベルトを残して人力により掘り下げを行い、埋葬施設の形態及びその構造を確認する。埋葬施設の内部を人力により精査して、その構造（石棺または木棺かどうか）を確認する。蓋石が残っている場合は、掘削により崩落しないよう安全に配慮して慎重に行う。あわせて、土層断面及び遺物検出状況等の記録作業を行う。</p>	<p>土層・遺物出土状況写真</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考古学的重要度に応じた記録方法を取る。</li> </ul> <p>土層実測図（断面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺 1/10～1/20</li> <li>土層の色調等の注記は、『標準土色帖』※による客観的な基準に基づいて行う。（以下同じ。）</li> <li>堆積状況に関する調査所見も記入する。</li> </ul> <p>遺物出土状況実測図（平面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺 1/5～1/20</li> </ul>
	<p><b>（古墳の場合）</b></p> <p>古墳と考えられる場合は、墳丘を人力により精査して盛土の堆積状況を確認する。墳丘及び盛土土層断面等の記録作業を行う。</p> <p>また、周溝の検出に努めて必要な記録作業を行う。</p>	<p>墳丘・盛土土層断面等写真</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考古学的重要度に応じた記録方法を取る。</li> </ul> <p>墳丘地形測量図（平面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺 1/100 程度</li> </ul> <p>土層実測図（断面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺 1/10～1/20</li> <li>注記等は前述のとおり。</li> </ul>

<p>(3)</p>	<p><b>遺構の調査(2) (古墳の場合を含む。)</b></p> <p>墓壇の床面においては、棺構造など埋葬施設に関する有意義な情報を得るため、小型の道具を用いて十分な精査に努める。床面付近には、木棺の痕跡などが残っている場合があるため、土層の変化には細心の注意を払い、必要な記録作業を行う。木棺の痕跡や人骨などの有機物、赤色顔料が検出された場合や、土壌内より有意義な情報が得られる場合は、必要に応じてサンプルを採取する。また、玉類など小型の遺物や鏡・鉄器類等の脆弱な遺物が存在する可能性があるため、遺物を傷つけないよう竹ベラなどで細心の注意をもって掘り下げを行う。なお、床面の副葬品は、小型の遺物が密集している場合もあるため、適切な縮尺により図化する。さらに、床面に礫床・棺台石・枕などの構造物がある場合には、構造・機能・特徴が十分に表現可能な手法で記録作業を行う。</p>	<p><b>遺物出土状況写真</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考古学的重要度に応じた記録方法を取る。</li> </ul> <p><b>遺物出土状況実測図</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺 1/5～1/20</li> <li>平面・断面図（必要に応じて立面図を作成する。）</li> </ul> <p><b>床面検出（完掘）写真</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考古学的重要度に応じた記録方法を取る。</li> </ul> <p><b>床面検出（完掘）実測図</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺 1/10～1/20</li> <li>平面・断面図（必要に応じて立面図を作成する。）</li> </ul>
	<p><b>墳丘の断ち割り確認・調査（古墳の場合）</b></p> <p>墳丘の築造方法・埋葬施設との前後関係等に関する必要な情報を得るために、墳丘を断ち割りして解体調査を行う。トレンチ調査により築造工程を大略把握した後、盛土構築単位で層位的に掘削し、必要な記録作業を行う。</p> <p>墳丘の掘り下げは、人力による比較的大型の掘削用具を用いて行うが、築造中のある段階に意図的に遺物が埋納されている場合があるので、適宜必要な記録作業を行う。</p>	<p><b>墳丘土層写真</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考古学的重要度に応じた記録方法を取る。</li> </ul> <p><b>墳丘土層実測図（断面）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺 1/20 程度</li> <li>注記等は前述のとおり。</li> </ul> <p><b>遺物出土状況写真</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考古学的重要度に応じた記録方法を取る。</li> </ul>
<p>(4)</p>	<p><b>調査区全体の写真撮影（空中写真を含む。)</b></p> <p>調査区全体の記録は、遺跡の全体状況に関する総合的なものとなり、墳墓（古墳）の形状・特徴が十分に表現できるよう、調査区全体を俯瞰するかたちで撮影する必要がある。</p> <p>各墳墓の位置関係や立地の特徴を表現できるよう、空中からの写真撮影が望ましい。なお、その場合も複数のアングルから撮影すること。</p>	<p><b>調査区全体写真</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>報告書では通常大判写真で掲載することから、アナログ・デジタル写真ともに遺跡の情報を最大限に表現できる写真を撮影すること。写真の仕様については、別記する。</li> </ul>

(5)	<b>調査区全体図・地形測量図の作成</b> 遺跡完掘時の記録は，その遺跡の全体像を把握する上で最も有効かつ不可欠なものであり，遺構配置や地形が表現されるよう十分な精度をもって行う。	<b>調査後地形測量図（平面）</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 縮尺 1/100 程度</li><li>・ 等高線 25 cm程度</li></ul>
-----	--	---

※ 農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色票監修『標準土色帖』

## 別紙4 資器材一覧

### 1 発掘用具・発掘消耗品

品名	規格
シャベル	金星 4021, 丸型ショベル(全長 970 mm)
ジョレン	金星 5074, 本職用ジョレン(鋼付)(全長 1350 mm)
バチヅル	金星 264453, バチルハシ頭 1.5 kg 264454 柄(全長 900 mm)
バチグワ (小)	浅香工業鍛造片手大バチ, 鋏柄付(全長 360 mm)
バチグワ (大)	金星 4058 本職用丁能鋏柄付(1050×85×225 mm)
根切オノ	金星 1613 割斧 (頭部: 約 1.5kg, 全長 905 mm, 刃渡 80 mm)
草削り (小)	千吉金賞山陽型草削り丸刃(幅 130mm, 高さ 355mm, 奥行 90 mm)
草削り (大)	金星 4111G S窓ホー(鋼付)(刃渡 210 mm)
ステーキホー (小)	金星 1410 両刃草削り(鋼付)(全長 430 mm)
ステーキホー (大)	金星 4117G S三角ホー(鋼付)(240 mm, 全長 1330 mm)
鋸 (片刃, 手曲り)	東蔵王, 手曲鋸(360m/m)
鋸 (両刃)	角利, 両刃鋸(270m/m)
鋸目立て	ソマックスNo250 ソーセット, 普通目用
草刈鎌 (中厚)	金星 1527, 闘虎本職用中厚鎌(180 mm), 諸刃(全長 395 mm)
山鎌 (厚鎌)	金星 1567, ゴールデンスター特選のぼり鎌(220g) 諸刃全長(510 mm)
ナタ (片刃)	金星 1604, 金星腰鉞・片刃(180 mm, 全長 375 mm)
剪定のこ	金星 3102, 大福果樹兼用選定のこ(替刃式, 210 mm)
剪定バサミ(兼次)	金星 2463, 剪定バサミ B型(金止, 200 mm)
石み (穴なし)	積水化学工業(ブルー) (小) (420×450×120h(mm))
石み (穴なし)	アロン化成(ブルー) (小) (430×430×130h(mm))
移植ゴテ	金星 1307, ステンレス共柄移植鋏(太幅)(全長 290 mm)
おたま	山田工業所, 中華お玉(中)柄鉄製
ヒシャク (短柄)	金星 6139, (アルマイト)(直径 13cm)
ヒシャク (長柄)	ヤザキ FL-30 万能ヒシャク(ポリエチレン)
フルイ	金星 4321 ステンレスとおし(大)(替網式)
一輪車	2才 (切) 積
空気入	高圧タンク付エアーポンプ
ビニールシート	5.4×5.4m (3間×3間) 井3000, (10×10m)
普通合板	2類2等F☆☆☆☆, (900×1,800×8.5 mm)
杭 (60 cm)	4 cm角
杭 (120 cm)	6 cm角
掛矢	金星 4089 兼次カケヤ(105 mm, 全長 960 mm)
ロープ	クレモナロープ, 両口編込(10 mm×10m)
ケミ縄	セキスイ, Pロープ, (PPR36 3, 200m)
ポリ紐	セキスイ, タフロープ, レコード巻(500m)
水糸 (純綿・1000m)	たくみチーズ巻No2
水糸 (ナイロン製)	マキロン黄色(100m)
ポール	マイポール MYPL-22, 2 m 2段
ピンポール	マイゾック SAP-100, 1 m
ミニスタッフ	マイゾック MTR-22, 2 m 2段, バカボー君

スタッフ	マイゾック, ニューサンアルミ SUN-53, 5m 3段, 全長直読字付
巻尺 (10m)	KDS, ゴムタフミックカプセル12・10(GK12-10N)
巻尺 (30m)	セキスイ, エスロン巻尺(12-30HRW)
巻尺 (50m)	セキスイ, エスロン巻尺(12-50HRW)
コンベックス	KDSネオロック(3.5m)
錘球 (平板用)	平板用下げ振り 70g 垂糸付
棒レベル (30 cm)	トラスコ, アルミレベル(箱型)LAB-300
ポリバケツ	広口
ジョロ (3.5 $\frac{1}{2}$ リットル)	金星 6202 ポリ如露
スポンジ	左官用 (白) (200×300×60 mm)
タワシ	亀の子 (小)
手ボウキ	チキチ, チリホーキ, パームNo27
竹串	15cm
シダボウキ (短柄)	
シダボウキ (長柄)	
竹ボウキ	
土のう袋	国産
布荷札	50 枚 1 束(耐水) (60×120 mm)
釘 (3.2 cm)	
釘 (15.0 cm)	
ポリタンク (20 $\frac{1}{2}$ リットル)	白色
ポリタンク (18 $\frac{1}{2}$ リットル)	広口活栓付
洗浄カゴ (育苗箱)	第一合成, 洗浄カゴ (中) (360×260×60mm)
工具箱一式	
砥石 (中)	金剛砥石(205×75×50mm) 三丁掛, 細目 #220
スプレーラッカー	日本ペイント(赤) スプレーラッカー(400ml)
レベルブック	コクヨ(セ-Y11, セ-Y1)
図面ファイル	コクヨ(セ-FC6B) A1, 2つ折
画板	ペンテル(ZSG1-2N)
画鋸	コクヨ(カヒ-2N) 60 本
ドラフティングテープ	住友 3Mスコッチ(230-3-18) (18 mm×30m)
山型クリップ	コクヨ(クリ-23) (大)
サインペン (黒・赤)	ペンテル(S520-AD, S520-BD)
マジック細字 (黒・赤)	マジックインキ(No.700)
マジック中字 (黒・赤)	マジックインキ(No.500)
マジック太字 (黒・短)	マジックインキ大型
フラットファイル	コクヨ(フ-V10P) (A4-S・ピンク)
ポリ袋 (小)	福助工業(No.11, 300×200×0.03 mm, 100 枚)
ポリ袋 (中)	福助工業(No.15, 300×450×0.03 mm, 100 枚)
三角スケール	コクヨ(TZ-1502) (30cm, 竹芯)
脚立	天板, 高さ 1.70m程度

※ 発掘用具・発掘消耗品については同等品でもよい。

※ 実測用方眼紙・遺物収納コンテナは、甲が提供するものを使用すること。

## 2 写真撮影機材

品名	規格・数量
大型・中型カメラ (6×6以上)	1台 (フィルムホルダー交換タイプでない場合は2台)
35mm, 一眼レフカメラ本体	2台
35mm, 一眼レフカメラ用交換レンズ	24mm・28mm・35mm・50mmを各1本
フルサイズデジタルカメラ	1台 (レンズは24~100mm程度のズームでも可)
カメラ用三脚	1台
写真撮影用足場	アルミ合金製組立式作業台 (足場) 3段1組1式 (安全手摺付, 外部支え不要, 下階基礎部分ジャッキベース) ※ 長谷川工業株式会社製ライトタワーステアウェイと同等品で可。

## 3 撮影使用フィルム

品名	規格
ポジフィルム 120mm	フジクローム プロピア 100F120
ポジフィルム 35mm	フジクローム プロピア 100F135-36
モノクローム 120mm	フジフィルム ネオパン アクロス 100II120
モノクローム 35mm	フジフィルム ネオパン アクロス 100II135-36

## 4 写真整理用品

品名	規格
カラーリバーサル 120mm	コクヨ フォトファイル (A4サイズ) ア-M160NB 台紙なしタイプ コクヨ フィルム用替台紙 (A4サイズ) ア-M923 ポジポケット6×6・6×7・6×9 (片面乳白)
カラーリバーサル 35mm	コクヨ ネガアルバム (四ツ切サイズ) ア-230NB コンタクト台紙付き両面クリヤータイプ (6段ポケット)
モノクローム 120mm	コクヨ フォトファイル (A4サイズ) ア-M160NB 台紙なしタイプ コクヨ フィルム用替台紙 (A4サイズ) ア-M923 ポジポケット6×6・6×7・6×9 (片面乳白)
モノクローム 35mm	コクヨ ネガアルバム (四ツ切サイズ) ア-230NB コンタクト台紙付き両面クリヤータイプ (6段ポケット)

## 5 測量機材

品名	規格・数量
ノンプリズムトータルステーション	一式 (三脚・反射プリズム・データ転送用ケーブル・データ保存用ノートパソコン付) ・ノンプリズムトータルステーション ・ノートパソコン
レベル	一式
平板測量用具	一式

## 6 その他

品名	規格・数量
調査事務所	1棟（プレハブ5.4m×7.2m，2階建，空調設備・備品類含む。） ※ 調査職員用事務机・椅子各1を設置すること。 ※ 詳細は別紙6参照
トイレ	一式（大2，小1 軽水洗フット式）
テント	1張（2間×3間程度）
寒冷紗	一式（10m×10m程度）
電動グラインダー	1台

別紙5 成果品

	名 称 等	必要数量
1	発掘調査日誌	1部
2	調査業務報告（作業進捗状況報告）	1部
3	遺跡全体図（原図）	1部
4	遺構実測図（平面図・断面図・立面図）（原図）	各1部
5	遺物出土状況図（平面図・断面図・立面図）（原図）	各1部
6	遺構略測図（原図）	1部
7	遺跡全体・遺構・遺物出土状況等写真（フィルム・ベタ焼き） 遺跡空中写真（近景・遠景）（フィルム・ベタ焼き）	一式
8	写真台帳	1部
9	コンテナ（遺物）台帳	1部
10	遺構台帳	1部
11	図面台帳	1部
12	発掘作業記録（業務管理写真） ※ 発掘調査日誌に対応したものとし、コンパクトデジタル カメラ画像も可とする。	一式
13	8～12のデジタルデータ ※ ハードディスク等に記録したもの	一式
14	測量野帳（本業務履行期間中に、調査員が発掘作業状況や遺構・ 遺物出土状況など、本業務の状況を記録した帳票類）	一式
15	その他、甲の指示したもの	一式

## 別紙6 調査事務所仕様詳細

### 1 基本的内容

構造	数量	規模	階数	備考
プレハブ式	1棟	5.4m×7.2m	2	ユニットハウスも可とする。

### 2 付帯工事

- ・ 排水工事（流し台を設置し、簡易な配管で排水を土中に流し込む。）
- ・ 電気配線工事（屋内外配線）

### 3 留意事項

- ・ 照明器具を設置する。
- ・ 出入口に雨だれ庇を設置する。
- ・ 出入口には、カーテンを設置する。
- ・ 窓には、カーテン又はブラインドを設置する。

### 4 空調設備・備品類一覧

	品名	規格	必要数量	単位	備考
1	片袖机	915×635×740mm	3	台	調査員用
2	回転椅子	405×370×405～495mm	3	台	調査員用
3	会議用テーブル	1,800×450×700mm	10	台	
4	折りたたみ椅子		20	台	
5	立型両開書庫	880×380×1790mm	1	台	
6	アングル棚	915×635×740mm, 5段	1	台	
7	月例ホワイトボード	1,800×900mm	1	台	
8	消火器	A B C 10 型	1	台	
9	流し台	1槽	1	台	
10	コンロ台		1	台	
11	ガスコンロ	1口, カセットコンロ可	1	台	
12	マップケース	978×740×418mm	1	台	
13	冷蔵庫	103ℓ	2	台	
14	エアコン		2	台	

※ 「片袖机」・「回転椅子」は、調査職員用各1を含む。